

The opening of this issue was dedicated to an obituary of Tsuneo SAHEKI who had passed away on 22 February 1996. This was written by Masatsugu MINAMI, and Takeshi (Ken) SATO and Toshiaki HIKI also gave their memorial addresses to SAHEKI. The Obituary was recorded soon in the CMO-Web Site: <http://www.mars.dti.ne.jp/~cmo/175/cmo175.html>

That implies that this issue (CMO #175) was the first issue that was introduced into the CMO-Web.

この号は、この年の二月22日に他界された佐伯恒夫氏の追悼号である。文頭から四ページにわたり南(Mn)氏による英文の"Obituary Tsuneo SAHEKI (1916~1996)"が綴られ、その中には、佐伯氏の火星観測の来歴が詳しく紹介されている。次いで佐藤健氏、日岐敏明(Hk)氏が佐伯氏を偲んで寄稿されている。欄外にはJBBA 96 (1985) 8から、佐藤健氏のLetterとそれに関して理査・麥肯(RMk)氏のコメントの引用がある。JBBAに掲載されたA W WILKINSON氏の火星図にNodus Laocoontisが描かれたこと、その暗色模様は佐伯氏の初検出と命名のエピソードが語られている。

LtEは、André NIKOLAI, Dan TROIANI, Jim BELL, Wolfgang MEYER, Alan HEATH, Don PARKER, Detlev NIECHOY, 林啓生(Qi-Sheng LIN、臺灣), 赤羽徳英(飛騨天文台)及び筆者からの便りである。いくつかはe-mailでの受信で、DPk氏が未だ@compuserve.comの時代である。Jim BELL氏からのe-mailは三国の南氏宅でパソコン通信を立ち上げて、初めて京大のホストからTelenet経由で受信したものである。筆者もその場に同席していて、発信者のアドレスの先頭がjimbo@となっており、南氏は「神保とは何處の誰だ?」などと最初に言っていたのを懐かしく思い出す。本文はそっくり引用されているが、"1996-97 International Mars Watch Project"への参加の呼びかけで、インターネット・電子メールを使ったネットワーク作り始めの試みであった。

その他に、南氏の「福井便り」は五月連休に筆者が福井を訪ねたときのこと。「一点点・一天天」は桜の話(この年の春の京都賀茂の半木の堤のことなど)、他に「時時間間」(三国中学への電話の話)等が見られる。Ns氏が三国中学を離れた時期のことである。巻末お知らせには、筆者(Mk)が『火星通信』編集部に参加する事がアナウンスされた。「六月の天象」はMkが紹介している。ちょうど百武彗星が地球に接近して通過していった(25Mar1996)あとのことでLtEにも彗星の話(林啓生氏の写真など)があった。何れも十年前の話となった。

TYAは五回目となり、1986年五月のCMO#008,#009の内容が紹介されている。廿年前の火星は接近前の逆行に入る頃で、視直径は13.4"(10May1986)と大きくなりつつあった。Mn氏は臺北滞在中で、体調を崩されたとの記事もあった由。

村上昌己 (Mk)

